



陸上養殖設備展 NEWS

Vol.1

発行元
陸上養殖設備展NEWS編集室
〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル 4階 アテックス(株)内
TEL:03-3503-7805
E-mail:land-aqua@a-tex.co.jp

陸上養殖設備の専門展示会、出展申込受付中



近年、閉鎖循環式を中心とした陸上養殖が、環境負荷の低減や安定的な食料供給の観点から注目を集めている。国内では、NTTグリーン&フードが静岡県磐田市で、バナメイエビの陸上養殖施設「磐田プラント」を竣工し、国内最大規模となる年産200トン体制での生産を進めている。東邦ガスはLNG冷熱を活用した「知多クールサーモン」のブランド化を愛知県で推進中であるほか、J R西日本も参入し、それぞれのインフラ技術を活かした陸上養殖事業を展開している。また、三菱商事とマルハニチロの合弁会社「アトランド」は、2027年度中のアトランドニッ

循環型社会に向けて 注目を集める陸上養殖

2025年10月15日から17日の3日間、東京ビッグサイト東ホールで、国内唯一の陸上養殖設備の展示会が開催される。本展示会は、陸上養殖に関わる最新の設備や技術が一堂に集まる場として、多くの業界関係者から高い関心を集めている。

同展は、陸上養殖の設備や機械の専門展示会でありながらも、今回、養殖事業者の展示コーナーを併設し、今後の陸上養殖としてのビジネスモデルを実例で紹介する。設備・機材メーカーと事業者の交流を促進する場として、また陸上養殖事業に、今後新規参入を計画する来場者との情報や技術交流を行ない、活発な商取引を通じた業界の発展を目指している。

現在、事務局には、海外を含め多数の問合せが寄せられ、出展の申し込みも順調に行われている。

今秋開催、国内唯一陸上養殖設備の展示会 新規出展申し込み続々と



クサーモンの初出荷を目指しており、全国で陸上養殖の取り組みが一層加速している。

FRDジャパンは、閉鎖循環式陸上養殖を基盤とし、国内におけるサーモンの安定供給体制の構築を進めている。こうした動きは、地域活性化や食料自給率の向上、そして持続可能な漁業の実現に大きく寄与する。

一方で、日本市場に対する外資系企業の関心も高まっている。ノルウェーのプロキシマー社は静岡県において世界最大級の陸上養殖施設を稼働中で、25年は3000トンを超すサーモンを生産する見込みである。さらに、ピュアサーモンジャパンも三重県で大規模な陸上養殖施設の開発を準備しており、日本をアジア市場への供給拠点と位置つけた積極的な投資を進めている。

こうした国内外企業の動向を背景に、2025年10月に東京ビッグサイトで開催される「陸上養殖設備展2025」では、最新の設備・技術・ICTソリューションが一堂に集結する。成長著しい陸上養殖産業の“今”を捉える貴重な場となることが期待されている。

先端の養殖設備・ 技術が一堂に

今年の陸上養殖設備展では、省エネ・高効率・スマート化を軸に、最新の技術やソリューションが数多く出展されており、今後の陸上養殖の発展を示す場となっている。

循環型養殖システムの分野では、ARKが小型閉鎖循環式「ARK ZERO」シリーズと管理アプリ「STARBOARD BY ARK」を出展し、省スペース・省人化を実現するスマート養殖を提案する。プレスカは泡沫分離装置や脱窒装置、アワビ養殖向けの閉鎖循環システムを紹介し、イカ墨除去の実演も行う予定。三通国際商事は循環型養殖設備や殺菌装置、フィルターなどを網羅的に展示する。

A・I・O・T関連では、アイエンターが水質センサー、A・I・魚体サイズ測定カメラ、フィッシュカウンタといったデジタル機器を通じて、水産DXやブランディング支援を展開する。養殖現場の見える化と効率化を促進する取り組みである。

水処理技術では、アクアインパルス



が、ろ過フィルターやマイクロナノバブルノズル、UV装置を、東芝ライテックと三通国際商事もUV水殺菌装置を提案する。アクポニはアクアポニックスのパイオニアとして、Waterco社製の循環フィルターやUV機器を展示し、陸上養殖と植物栽培の融合型モデルを提示する。

そのほか、大阪ガスリキッドは酸素曝気装置を、広州暖漁宝智慧科技は水温を効率的に上昇させる加熱膜を出展し、成長促進と省エネに貢献する技術を披露する。石垣は自動洗浄機能付きろ過装置「湧清水」を、ティビーアールは繊維ろ過材「バイオコード」や人工海藻を展示する。

地域活性化の観点では、CMエンジニアリングが廃校などの遊休施設を活用したエビ養殖モデルを紹介し、日建リース工業は小規模輸送に適した「魚活ボックス」のレンタルを提案する。さらに、巴商会は設備提案から魚の販売まで、養殖事業をトータルで支援する体制を整えている。

多様な技術とサービスがそろった本展示会は、陸上養殖の将来像を描く貴重な機会である。

養殖事業者による 展示コーナーも

今年の「陸上養殖設備展」では、設備・資材メーカーに加えて、実際に陸上養殖を行う事業者による出展も見どころの一つである。これらの展示では、設備の活用事例や事業モデルが具体的に示され、導入を検討する来場者にとって貴重な参考事例となる。

近年、国内では海面養殖に代わる持続可能な選択肢として、閉鎖性と管理性に優れた陸上養殖への注目が高まっている。都市近郊での生産や地域資源を活用したビジネスモデルが増え、多様な形態の事業が展開されつつある。

東邦ガスはLNG冷熱を活用したスマート養殖でサーモンを育成し、「知多クールサーモン」の地域ブランド化を目指す。かもめミライ水産は、自社の製品やサービスに関するパネル展示を行い、現場の実践的な取り組みの事例を紹介する。ネッツフォレスト陸上養殖は、少額投資で始められる「Hybrid RAS」システムと、安心・安全・高品質な国産ブランド「天然水サーモン」を紹介し、事業者の新規参入を促す。

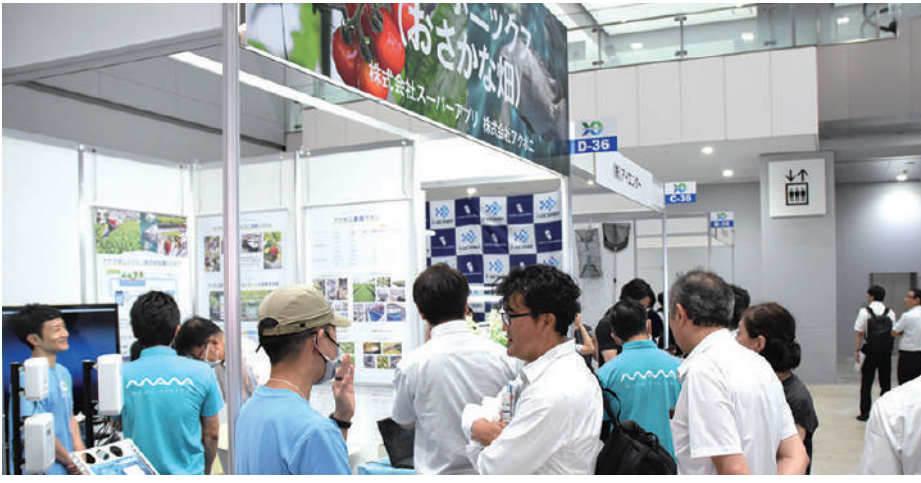
また、静岡ガスをはじめ、複数の事業者が現在出展の準備を進めており、今後さらに多様な養殖モデルが紹介される予定。これらの取り組みは、陸上養殖の実用化と産業化を加速する動きとして注目だ。



陸上養殖設備分野で進む
異業種の技術参入

近年、国内の陸上養殖分野において異業種の大手企業が、設備や機器の提供を通じて技術参入を加速させている。とりわけ、建設・通信・ITなどの分野から、自社の技術力や資本を活かして陸上養殖の高度化を支える動きが広がり、一次産業の技術革新に貢献する新たな展開として注目されている。

たとえば、大和ハウス工業はノルウェー企業と連携し、静岡県でアトランティックサーモンの閉鎖循環型陸上養殖施設を開発、建築技術を活かした持続可能な運営モデルを構築。エア・ウォーターも、スマート技術との融合による次世代型の養殖施設開発に取り組む。NTTグループは水質モニタリングや養殖環境の最適化に向け、ICTを活用したスマート養殖技術の開発を進行中である。さらにソフトバンクも、AIやIoTを活用した食料生産の高度化を視野に、陸上養殖を含むアグリテック分野への投資を強化している。



このような取り組みは、食料安全保障や環境配慮といった社会的課題の解決にもつながると期待されており、国や自治体も補助制度などで支援を強化している。異業種からの設備・技術面での参画は、陸上養殖がもはや従来の水産業の枠にとどまらず、先端分野との連携によって進化したものであることを示している。

そうしたなかで開催される「陸上養殖設備展」は、最新技術や設備の情報共有の場として重要な役割を果たす。異業種・新規参入企業と既存事業者との交流を促進し、業界全体の連携や技術革新を加速させると期待されている。

来場を喚起する陸上養殖
セミナーを連日開催

今回の陸上養殖設備展では、併催セミナーが連日開催される。陸上養殖の最新動向や事業展開をテーマに、事業者や関連企業のトップが登壇し、実践的な知見や将来展望を披露する。

まず、かもめミライ水産代表取締役の大澤公伸氏が、自社の現状と今後の成長戦略を紹介する。地域資源を活用し、持続可能な養殖技術の開発に注力する同社の取り組みは、地域密着型の陸上養殖の可能性を示す。続いて、ニチモウ養殖開発室の服部廉氏が、長年のサケ科魚類養殖事業の遍歴を踏まえて、環境負荷低減や効率化を目指した陸上養殖への挑戦を語る。

アクアポニックスをテーマにした講演も注目される。プラントフォーム代表取締役CEOの山本祐二氏が、植物と魚を組み合わせた循環型システムの事例から、効率的かつ持続可能な養殖モデルの構築法を解説する。これに加え、アクポニ代表取締役の濱田健吾氏も、陸上養殖参入時のアクアポニックス活用方法をわかりやすく伝える。

また、エネルギー活用と物流に関する講演も充実している。東邦ガス

事業開発部次長の木村徳博氏は、LNG冷熱を用いた独自の養殖技術とブランド化の取り組みを披露。さらに、日建リース工業事業開発部係長の金子佳樹氏は、稚魚および活魚輸送の課題と今後の展望を示し、鮮度維持と物流効率化の重要性を説く。

ビジネスモデルの展開については、ネッツフォレスト陸上養殖フランチャイズ推進本部長の高田暁洋氏が、サステイナブルな養殖事業の実例とフランチャイズモデルの広がりを紹介し、地域創生と高品質養殖の両立を説明する。さらに、ICTやスマート技術を活用した循環型養殖の最前線については、NTTグリーン&フード代表取締役社長長の久住嘉和氏が講演し、食料問題・環境問題の解決に向けた挑戦を語る。

これら多彩なテーマを扱うセミナーは、陸上養殖の今後の展開を多角的に示すとともに、業界の最新技術や実践事例を紹介する重要な機会となる。



注目！セミナー紹介



陸上養殖に進出する際に
知っておきたい
アクアポニックスの活用

(株)アクポニ
代表取締役
濱田 健吾 氏



東邦ガス(株)
事業開発部 次長
木村 徳博 氏

LNG冷熱を活用した
陸上養殖の挑戦
「知多クールサーモン」のブランド化



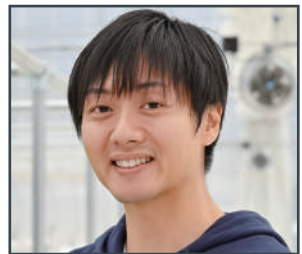
ニチモウ(株)
養殖開発室 室員
服部 廉 氏

ニチモウ(株)のサケ科
魚類養殖事業の遍歴と
陸上養殖への取り組みについて



NTTグリーン&フード(株)
代表取締役社長
久住 嘉和 氏

循環型陸上養殖を通じた
食料問題・環境問題解決への挑戦



アクアポニックスを通して
見えてきた陸上養殖
成功へのカギ／道筋

(株)プラントフォーム
代表取締役CEO
山本 祐二 氏



ネッツフォレスト陸上養殖(株)
フランチャイズ推進部長
高田 暁洋 氏

未来につながるサステイナブルな
陸上養殖事業の実例と
フランチャイズモデルによる
広がり



日建リース工業(株)
事業開発部 係長
金子 佳樹 氏

陸上養殖における稚魚輸送、
活魚輸送の課題と今後



かもめミライ水産(株)
代表取締役
大澤 公伸 氏

かもめミライ水産のこれから

出展募集中

出展に関する
お問い合わせ



陸上養殖設備展事務局

TEL:03-3503-7805 MAIL:land-aqua@a-tex.co.jp

<https://www.land-aqua.com/>